

岡山大学

大学院法務研究科

OKAYAMA UNIVERSITY
SCHOOL OF LAW



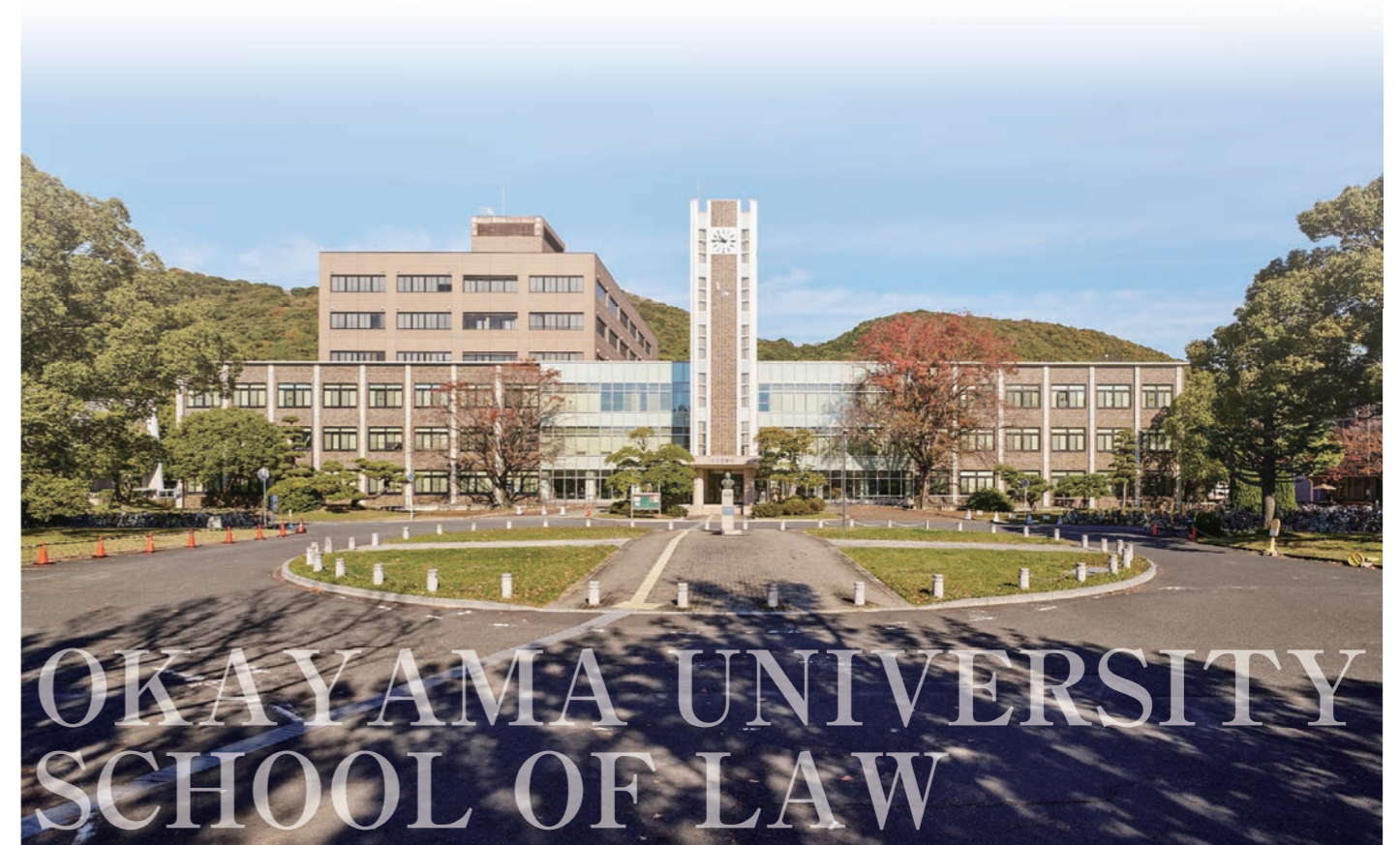
OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く



ACCESS MAP

- JR岡山駅運動公園口(西口)から岡電バス「岡山理科大学」行に乗車、「岡大西門」で下車
- JR津山線「法界院」駅で下車、徒歩約15分



2026年度 大学院案内



OKAYAMA
UNIVERSITY

学章

岡山大学大学院法務研究科

〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1番1号(津島キャンパス)

お問合せ窓口：大学院社会文化科学研究科等事務部法務研究科担当

Tel. 086-251-7358 Fax. 086-251-7350

E-mail ggg7372@adm.okayama-u.ac.jp

編集：大学院社会文化科学研究科等事務部法務研究科担当

<https://www.lawschool.okayama-u.ac.jp/>

<https://m.facebook.com/okadai.lawschool/>

岡山大学大学院法務研究科



検索

研究科長メッセージ

地域に奉仕し、地域に根差した法曹養成

法務研究科は、「地域に奉仕し、地域に根差した法曹育成」を教育理念に掲げ、これまで、岡山弁護士会ほか、地域自治体、企業等のご支援も得ながら、数多くの優秀な法曹を様々な分野に輩出してきました。また、平成24年には、当研究科の教育理念の一層の実現を目指して、「岡山大学法科大学院弁護士研修センター(OATC)」を設置し、組織内弁護士の養成を中心とした法曹継続教育の充実、法律家の活躍する新たな舞台の展開に努めてきました。

岡山大学法科大学院では、岡山大学法学部の法曹養成の伝統を継承しつつ、総合大学の強みを活かし、徹底した少人数教育のもと、法学教育、司法試験合格に向けた法曹養成教育の課程を構築するとともに、これに修了後の法曹継続教育・就職支援を有機的に結び付けた、「岡山の地で育つ地域に根差した法曹養成教育」を構築しています。(1) 学生と教員との距離、先輩と後輩の距離の近さを強みとする、学生一人一人のニーズに即したきめ細かい法曹養成教育、(2) 地域ニーズを踏まえた法律家の多様な活躍の舞台への橋渡し、(3) 地域の法的課題(もちろんそれは全国的・国際的課題でもあるでしょう) 解決に向けた法曹継続教育の適切なリンケージにより、教育及び人材輩出の両面において、中四国地域における中核的法科大学院としての責務を果たしていきたいと考えております。

半田山の麓、緑豊かなキャンパスで、「新たな課題を発見し、専門力を活用し社会を先駆ける高度専門職業人」(法務研究科「養成する人材像」) たらんとする皆さんの入学を心待ちにしています。



岡山大学大学院法務研究科長
鈴木 隆元
SUZUKI Takamoto

教育の方針

教育の基本的目標

法務研究科は、「地域に奉仕し、地域に根差した法曹育成」を理念に掲げ、高度専門職業人たる法曹にふさわしい倫理観や人権感覚に裏打ちされた高度の体系的法知識と実践的法運用能力を身につけた法曹の育成を目標にしています。

養成する人材像

新たな課題を発見し、専門力を活用し社会を先駆ける高度専門職業人

高度専門職業人たる法曹にふさわしい倫理観や人権感覚に裏打ちされた高度の体系的法知識と実践的法運用能力を身につけた法曹として、以下に掲げることを実践できる人材を養成します。

1. 基本的法分野についての体系的法理論と専門的知識を習得し、具体的な紛争につき、問題を発見し、事案を実践的に解決することができる人材(専門力・実践力)
2. 法曹にふさわしい倫理観や人権感覚を支える教養と深い洞察力を有効に活用し、人権の擁護、社会正義の実現に寄与することができる人材(教養力・洞察力)
3. 新しい法分野・法的課題に対する探究力と多様な関係者と連携するコミュニケーション力を通じ、地域の課題を発見し、その的確な解決を図り、地域に貢献することができる人材(探究力・コミュニケーション力)

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 【専門力】体系的法理論と専門的知識の習得
- 【実践力】法律の実践的運用能力
- 【探究力】新しい法分野・法的課題に対する探究力
- 【教養力・洞察力】法曹にふさわしい倫理観や人権感覚を支える教養力・洞察力
- 【コミュニケーション力】課題解決に向けて多様な関係者と連携できるコミュニケーション力

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)

法務研究科は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力: 専門力、実践力、探究力、教養力・洞察力、コミュニケーション力

- 【専門力】体系的法理論と専門的知識の習得
基本的法分野についての体系的法理論と専門的知識に基づき解答を導くことができる。
- 【実践力】法律の実践的運用能力
具体的な紛争につき、問題を発見し、事案を実践的に解決することができる。
- 【探究力】新しい法分野・法的課題に対する探究力
未解決の課題を発見し、解決の道筋を探究することができる。
- 【教養力・洞察力】法曹にふさわしい倫理観や人権感覚を支える教養力・洞察力
教養と深い洞察力を有効に活用し、人権の擁護、社会正義の実現に寄与することができる。
- 【コミュニケーション力】課題解決に向けて多様な関係者と連携できるコミュニケーション力
地域社会において生起する課題解決に向けて、多様な関係者と連携し、良好な関係を築くことができる。



CONTENTS

研究科長メッセージ	岡山大学法科大学院弁護士研修センター(OATC)	10
教育の方針	教員/スタッフ紹介	12
教育の特色・開講科目	司法試験合格者実績/サポート体制	15
カリキュラム概要	2026年度入学者選抜試験について	16
修了生からのメッセージ	学費/入学科・授業料免除/奨学金	17
岡大方程式~君の未来を切り拓こう!~		08

教育の特色・開講科目

教育の特色

education technique 1

少人数教育によるきめ細かな指導

2年次以上の演習科目については、1クラス 10～15人程度の少人数教育を行っています。これにより、双方向・多方向授業を展開し、法曹としての専門的資質・能力を、きめ細かな指導により確実に身につけることができます。

education technique 2

研究者教員と実務家教員の協働教育体制

研究者教員と実務家教員が教材作成段階から協働し、授業も実践するという体制を確立しています。現実の紛争は法律問題だけでなく、様々な問題が立体的に絡み合っており、法的解決のみならず、他の解決案も要請されているとの共通認識の下、弁護士などの法律専門家以外にも、公認会計士、社会福祉士など様々な専門職の協力も得ながら、幅広い授業を行っています。

education technique 3

組織内法務教育

企業、医療法人等の組織内で必要とされる組織内法務の教育を、継続教育を含め、一貫して行っています。在学中には、地域組織内法務や医療福祉分野におけるネットワーク・セミナーなどの関連科目を受講し、実際に組織内弁護士として勤務後には、母校で、継続教育として、外部の組織内弁護士、本学研究者教員が行う組織内弁護士研修や、医療福祉、行政などの研究会に参加することができます。

開講科目

A 法律基本科目群…Ⅰ、Ⅱはすべて必修、Ⅲは2単位選択必修			
Ⅰ基礎科目			
公法系		憲法Ⅰ(統治)(2) 憲法Ⅱ(人権)(2)	
民事法系		民法Ⅰ(4) 民法Ⅱ(4)	
		民法Ⅲ(4) 商法(4) 民事訴訟法(4)	
		刑法(4) 刑事訴訟法(4)	
	入門科目	法解釈入門(2)	
	Ⅱ基幹科目		
基礎科目	公法系	行政法特論(2) 人権演習(2) 憲法演習(2) 行政法演習(2)	
応用科目	民事法系	民法演習Ⅰ(2) 民法演習Ⅱ(2) 民法演習Ⅲ(2) 商法演習(4) 民事訴訟法演習(2)	
		刑事法系	刑法演習(4) 刑事訴訟法演習(2)
	Ⅲ選択必修科目		
	基礎科目	公法系	行政法解釈の基礎(2) 公法応用演習(2)
応用科目	民事法系	民事法応用演習(2) 商取引法(2)	
	刑事法系	刑事法応用演習(2)	

B 実務基礎科目群…Ⅰは必修、Ⅱは1科目選択必修、Ⅲは選択

Ⅰ必修科目	法曹倫理(2) 要件事実と事実認定の基礎(2) 民事訴訟実務(2) 刑事訴訟実務(2)	
	Ⅱ選択必修科目	ローヤリング(1) エクスターンシップ・クリニック(2) または模擬裁判(2)
	Ⅲ選択科目	要件事実・民事法演習(2)

C 基礎法学・隣接科目群…4単位選択必修

Ⅰ基礎法学科目	法哲学(2)／法社会学(2)／法制史(2)／英米法(2)
Ⅱ隣接科目	行政学(2)／企業会計論(2)／社会保障制度論(2)

D 展開・先端科目群…Ⅰから4単位選択必修、かつⅡまたはⅢの同じ分野から4単位選択必修

Ⅰ司法試験選択科目系	経済法(独禁法)Ⅰ／経済法(独禁法)Ⅱ／倒産処理法Ⅰ(破産法)／倒産処理法Ⅱ(民事再生法)／労働法Ⅰ／労働法Ⅱ／知的財産法Ⅰ／知的財産法Ⅱ／税法／国際法／国際私法／環境法
Ⅱ医療・福祉系	医事法Ⅰ／医事法Ⅱ／リーガルソーシャルワーク演習／社会保障法など
Ⅲ法とビジネス系	民事執行・保全法／企業法務／地域組織内法務(ネットワーク・セミナー)など

※「C基礎法学・隣接科目群」及び「D展開・先端科目群」のうち一部の科目は、隔年で開講する。

地域のニーズに対応した多様な科目

組織内法務に精通した弁護士を目指す

地域組織内法務(ネットワーク・セミナー)

メーカー、小売業などの地域の企業、医療法人、自治体などで活躍する組織内弁護士および法務担当者をゲストスピーカーとして招き、事業内容を踏まえ、契約審査の実務、顧問弁護士との連携方法、組織内他部局からの法律相談への対応など、法務業務の現状と組織内弁護士・法務担当者の課題について、具体的な事例を題材に学びます。

「その人らしく生きる」を支える法曹を目指す

医療福祉研究(ネットワーク・セミナー)

弁護士は、成年後見制度など権利擁護法制の重要な担い手です。また、社会福祉士など関係職種との連携も欠かせません。認知症高齢者など判断能力に課題のある人が「その人らしく生きる」ことを支えられる権利擁護のプロの育成を目的として、研究者教員、弁護士、社会福祉士の3名のほか、他の専門家・関係機関の協力も得て、権利擁護の実務を学びます。特に、後見実務については、即戦力レベルを目標としています。

障がい者等との共生社会を支援する法曹を目指す

リーガルソーシャルワーク演習

児童虐待が端緒でも、その背景に親の障がいや貧困があるなど、多問題が重複し一筋縄ではいかない事案、弁護士だけでは対応できない事案が世の中には多くあります。弁護士や社会福祉士を講師に迎え、事例を基に、そうした多問題重複ケースの支援スキルの向上を目指すとともに、地域での仕組みづくりおよび幅広いネットワークづくりを学びます。

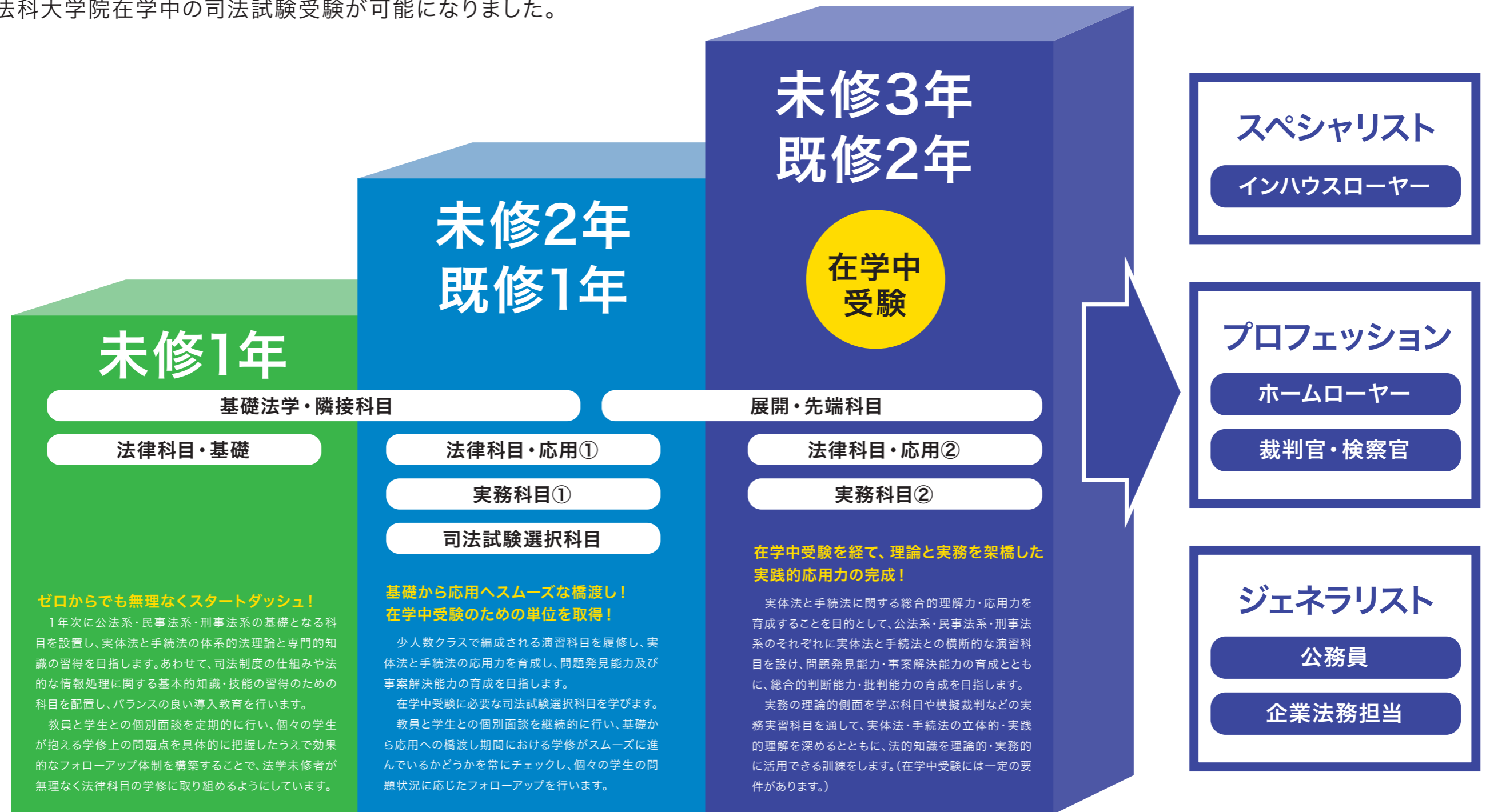
課程修了要件とその内訳

	法学未修者コース	法学既修者コース
「A 法律基本科目群」のうち必修科目	(AⅠ科目及びAⅡ科目) 60単位	(AⅡ科目) 26単位
「A 法律基本科目群」のうち選択必修科目	2単位	2単位
「B 実務基礎科目群」のうち必修科目	9単位	9単位
「B 実務基礎科目群」のうち選択必修科目	2単位	2単位
「C 基礎法学・隣接科目群」のうち選択必修科目	4単位	4単位
「D 展開・先端科目群」の科目	12単位(選択必修科目8単位を含む)	12単位(選択必修科目8単位を含む)
その他の科目	8単位以上	8単位以上
合計	97単位以上	63単位以上

カリキュラム概要

在学中受験の制度に即したカリキュラム

令和5年より法科大学院在学中の司法試験受験が可能になりました。



(法曹コース)
岡山大学法学部法曹プログラム
香川大学法学部法曹プログラム

【法曹コースとは】
 学部(3年間)+法科大学院(2年間)で学び、法科大学院在学中に司法試験に合格することを目指す課程です。
 岡山大学法学部法曹プログラム生・香川大学法学部法曹プログラム生は、一定の要件のもと、法曹コース特別入試(筆記試験免除)を受験することができます。

**じっくり学修、
修了後受験という選択肢**

従来の制度の通り、3年間(未修者)ないし2年間(既修者)かけて学び、法科大学院を修了した後に司法試験を受験することもできます。その場合、上図の「実務科目②」の一部を前倒して受講し、「司法試験選択科目」を最終学年で受講するなど、自分に合った履修形態を選べます。



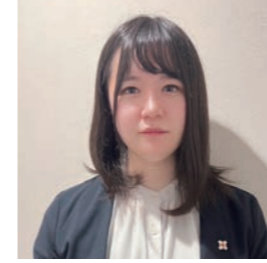
上田 郁也 判事補
(大阪地方裁判所)
岡山大学法学部卒業・法学既修者
平成30年度修了・令和元年司法試験合格

活発な議論を通じた深い学び

私は、大阪地裁刑事部で、主として裁判員裁判をはじめとする合議事件の左陪席裁判官として、日々刑事事件に関する審理判断に携わっています。一口に刑事事件と言っても全く同じ事件は存在しません。その中で重要となるのは、それぞれの事件について、適切な法の理解の下で、当事者の主張を正しく理解し、納得性の高い審理運営、判断をすることにあり、この点に裁判官としての仕事のやりがいを感じています。

岡山大学法科大学院では、少人数かつ双方向の授業が多く、同窓生、教授の皆様との活発な議論を通じて自分の法的思考を深めることができましたし、多様な価値観に触れることができました。このような法科大学院での議論や思考が、現在の私の裁判官としての活動の礎となっていることは間違いありません。

皆様が法科大学院で研鑽を積まれ、法曹としての第一歩を踏み出されることを心より祈念しております。



河上 悠里 検事
(神戸地方検察庁)
岡山大学法学部卒業・法学既修者
平成29年度修了・平成30年司法試験合格

少人数だからこそ実現できる最高の学修環境

私は、検察官として、取調べ、警察官と協議をしながらの事件捜査、決裁資料の起案など、様々な業務を行っていますが、このような業務において、相手の思考を理解し、自分の思考を他者に分かりやすく伝え、他者とコミュニケーションを図ることが重要だと痛感しています。

岡山大学法科大学院の授業では、少人数だからこそ、先生方や自分以外の学生の考えを聞くこと、その考えに対する自分の思考を発表することができ、他者の考えを理解し、自分の思考を分かりやすく伝える能力も養うことができました。

もちろん、その前提として、先生方には、個別質問に丁寧に対応していただきました。

このとおり、岡山大学法科大学院では、少人数だからこそ手厚い指導を受けることができ、その内容は、司法試験合格だけでなく、実務で必要となる能力にも直結するものでした。

法曹になられた皆様と一緒にお仕事ができることを楽しみにしています。



井上 民子 弁護士
(弁護士法人岡山パブリック法律事務所)
京都大学法学部卒業・法学未修者
令和2年度修了・令和3年司法試験合格

確かな知識と経験を得られる場所

私は、岡山パブリック法律事務所に所属する新人弁護士です。法律家として行う判断の重責と力不足を痛感する日々ですが、法科大学院時代の蓄積が支えとなっています。

私は、社会人学生で子どもがおり、勉強時間に制約がありました。今思うと、時間管理等、社会人としての経験も少し役に立ったかなと思いますが、何より岡山大学法科大学院の環境が素晴らしかったです。合理的なカリキュラムや実効性の高い課外ゼミ、少人数ゆえの先生方からの手厚い指導、社会人学生もするりと溶け込める人と人の近さと温かさ…同じ目的の下、世代の異なる同窓生たちと切磋琢磨することができました。岡山大学法科大学院で得た確かな基礎的知識と学修方法、そして、困ったときは助けを請おうという周囲の人々への信頼が私のセーフティネットとなっています。

ぜひ岡山大学法科大学院の恵まれた環境を駆使して研鑽と経験を積んでください。皆様と、同じ法曹としてともに働ける日が来ることを楽しみにしております。



修了生からのメッセージ

先輩たちから未来の法曹へのエール。

岡山で培ったスキルとマインドが、

あなたの道標になります。

挑戦を続ける先輩たちの言葉が

気づきと勇気を与えてくれるでしょう。



直井 美紗希さん
広島大学法学部卒業・法学未修者
令和4年度修了・令和6年司法試験合格

少人数制ゆえの充実したサポート

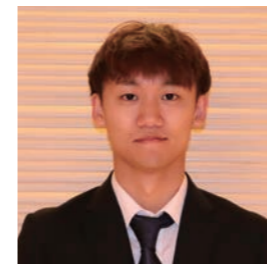
私は、他大学で理系の学部から3年生の時に法学部に転学しましたが、じっくり勉強する時間もなく、正直、大学では基礎から理解できている実感はありませんでした。

しかし、岡大ローに入り、授業を受けて学習していくうちに知識が身についていくのを実感でき、勉強をするのが楽しいと思えるようになりました。

このように思えるようになったのは、やはり岡大ローの分かりやすい授業や、少人数制ゆえに先生方や先輩方に質問がしやすく、疑問点をすぐに解決できる環境のおかげだと思います。

また、司法試験は想像以上にしんどい試験だと思います。岡大ローでは、先生方との定期的な面談があり、そこでは勉強のことだけでなく、私生活のことも気にかけてくださいました。このように岡大ローでは、勉強面だけでなく、精神的な面のサポートもしていただけます。

岡山大学法科大学院に入学される方は、先生方や先輩方を頼り、上述のような素晴らしい環境を生かして司法試験合格を目指してください。



川原 生寛さん
岐阜大学教育学部卒業・法学既修者
令和6年度修了・令和6年司法試験合格

少人数だからこそその最高の環境と最高の学び

私は、法科大学院を選択する際、迷わず岡山大学法科大学院を選びました。本学ローの秀でた点は、少人数体制を生かした教育の充実だと思います。

本学ローでは双方向型の授業が実施されており、対話的な演習の中で、法曹として必要な実践的理解や論理的思考力を養うことができます。また、少人数体制ゆえに受けられる先生方からの手厚い指導や、非常に充実した課外ゼミ、諸先輩方学友とのコミュニケーションを通じて、より深い学びを得ることができ、自分に合った学習スタイルを確立することも可能です。

私は、法学部すら無い大学の出身だったため、法的理解に乏しい自覚がありました。そのため、密な人間関係によって、様々な知識・技能を習得できる環境こそ、私が最も求めたものでしたが、本学ローへの進学を決めた、当時の選択は間違っていなかったと確信しております。

皆さんが最高の環境で充実した日々を過ごされることを、心より願っております。



岩崎 文佳さん
岡山大学法学部(法曹プログラム)卒業・法学既修者
令和6年度修了・令和6年司法試験合格

法科大学院全体での充実した「サポート」

入学後から司法試験本番までに勉強できる時間は、限られています。もっとも、岡山大学法科大学院には、次のようなサポート体制が整っているため、司法試験合格に向けて、日々の時間を有効に使うことができます。

第1に、最も重要な学習面でのサポートです。具体的には、本法科大学院では、少人数教育によって、学生の理解度に合わせた双方向型の授業が行われています。また、課外ゼミでは、卒業生の先輩方から、起案の添削を含めて指導していただけます。それゆえ、授業の予習・復習、及び、課外ゼミに取り組みれば、自然と司法試験合格に必要な能力が身に着きます。

第2に、本法科大学院独自の奨学金制度による金銭面でのサポートです。私は、この奨学金のおかげで、生活費等の金銭面の不安を抑えて、司法試験の勉強に集中できました。

このように本法科大学院は学生に対するサポートが大変充実していますから、是非、安心して、入学していただければと思います。

きめ細やかな少人数教育

懇切丁寧なフォローアップ

個々のレベルに対応した多様なフォローアップを行い、全員が課題を突破できるようにアシストします。

学修アドバイザー

法科大学院での後輩指導について豊富な経験を有する本研究科出身の弁護士2名が、主に、法学未修者コース1年生を対象に、学修支援を行っています。

法学部出身者ではない学生(純粋未修者)が、スムーズに、授業に参加し、各種レポートや記述式テストに対応できるように、授業への具体的な準備方法、法的文章の書き方など、少人数のゼミ形式で指導を行っています。

一人一人と向き合う教育

少人数教育の強みを生かして、学生一人一人の個性やニーズに適した教育を行います。

学生面談

前期および後期に、在学生全員を対象に、教員による個別面談(30分程度)を行っています。個別面談において示された授業に関する要望については、授業の担当教員に伝え、授業改善に役立てています。自習室、資料室等の学修環境についても、学生面談に示された要望を踏まえて改善しています。

個々の学生の悩みの相談を受けるなど、きめ細やかな少人数教育を行っています。

未来を創る
キャリアプログラム

OATCが行う多様なプログラムに参加することによって、将来の自分のキャリア像を具体化していきます。

岡山行政法実務研究会

岡山行政法実務研究会(平成25年設立)では、地元自治体が行政現場で直面する法的な課題の解決を目指して、自治体職員、弁護士、研究者等、様々な立場の会員が集まり、議論を行っています。これまでに、公務員の働き方改革、地域公共交通の問題、空き家対策などのまちづくり政策、災害対策などをテーマに研究会を開催しており、その成果は『臨床法務研究』に掲載されています。本研究科の学生は、当研究会に参加することによって、在学中から、地域の最新のテーマに関する議論に触れることができ、将来のキャリア形成にもつなげることが可能です。最近では、在学中に参加した研究会におけるテーマ(災害対策)に強い関心を持ち、司法試験合格後、県庁における選択型司法修習を実現した例があります。

君の未来を切り拓こう!

岡大方程式

充実した実務教育

本研究科では、実践を通じて法律を学びます。経験豊富な実務家教員が様々な授業を行っています。



京野哲也客員教授



ローヤリング



医療福祉研究(ネットワーク・セミナー)



模擬裁判



地域組織内法務(ネットワーク・セミナー)

皆さんを支えます

岡大ロースクールのサポーター

岡山大学晴法会
代表 弁護士 馬場 幸三
(平成18年度修了)

晴法会は、平成18年に発足した新司法試験研究会の通称です。岡山大学法科大学院修了生、臨床法務研究会会員その他一部の岡山弁護士会所属の弁護士等で構成され、在学生も、臨床法務研究会会員として参加することができます。

会員相互の親睦を深めることはもちろん、司法試験を受験する法科大学院生の学力向上、岡山大学法科大学院受験生の支援も目的としています。

これまで、司法試験受験に向けた応援はもちろん、司法試験合格後の就職・修習ガイダンス、岡山大学法科大学院同窓会などを実施し、縦のつながりを深めてきました。今後も親睦会や研修会等の活動を実施し、その名のおり岡山の晴れ空のような温かさをもって、岡山大学法科大学院の継続的教育と発展に貢献していきたいと存じます。

岡山大学法曹会(岡法会)
代表幹事 弁護士 杉本 秀介

岡法会(こうほうかい)は、岡山大学または岡法会答案練習会の出身者である法曹を会員とした団体です。岡法会答案練習会には岡山大学出身者でなくても入会できましたので、他大学出身の会員もいます。

コロナ禍以降実施できていませんが、コロナ禍以前は毎年夏期法律相談を実施して、参加する学生に実際の法律相談を見聞きする機会を設けていました。夏期法律相談は、法科大学院で実施される模擬法律相談とは異なる生の事案の重みを感じられる機会ですので、今後どのような形で再開できるよう、検討していきたいと考えています。

また、岡法会答案練習会に代わるサポート方法についても、今後検討していきたいと思っています。岡法会の伝統は、先輩から受けたサポートを後輩へサポートすることによって返すことです。皆さんを法曹の仲間を迎えられることを期待しています。

弁護士法人 岡山パブリック法律事務所
弁護士 西尾 史恵
(平成20年度修了)

当事務所は、岡山弁護士会によって設立された都市型公設法律事務所として、設置されています。弁護士、事務局、社会福祉士が一丸となって、社会的・経済的に受任が困難な案件を積極的に取り組んでいる事務所です。

当事務所は、これまで、岡山大学法科大学院に対し、教員、ゼミの指導担当員等を輩出し、また、エクスターンシップ、サマークラーク等を積極的に受け入れるなどの同大学院とは協力関係にあります。

私は、岡山大学法科大学院を卒業しました。その意味で岡山大学法科大学院には思い入れもあります。皆さまには、勉強に疲れたり、行き詰ったりした際、お気軽に当事務所にお越しいただき、相談相手になれたらと思っています。

岡山大学法科大学院弁護士研修センター (OATC)

OKAYAMA UNIVERSITY ATTORNEY TRAINING CENTER

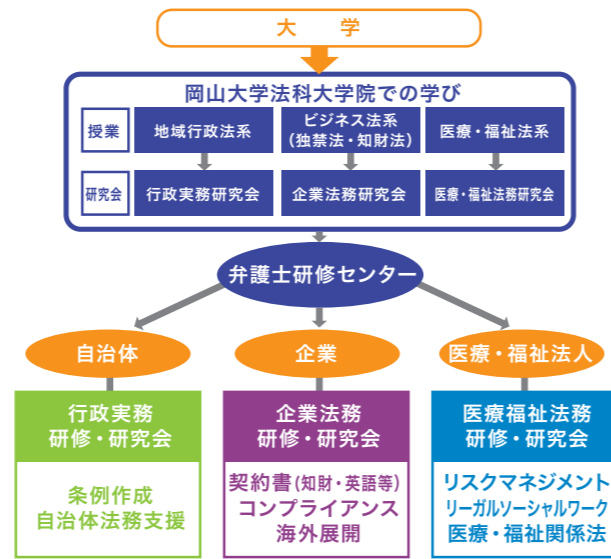
組織内弁護士を養成し、自治体・医療福祉法人・企業に輩出します。

岡山大学法科大学院弁護士研修センターは、組織内弁護士を養成することを目的として、平成24年12月に設立された法科大学院の附属機関です。本センターが中心となり、地域の組織に出身弁護士を輩出し、その後、継続教育を行うことによって、地域に貢献することを基本的な考え方としています。

岡山大学法科大学院では、地域のニーズに対応して、法科大学院のカリキュラムと司法試験合格後の継続教育を連携させた形で、企業法務、医療・福祉法実務、行政法実務の三分野において、一貫した教育を行っています。入学後、各自の関心に応じて、法科大学院の段階で、実務に即した授業や各種研究会に参加するとともに、合格後も、研究会や研修を通じ、継続して、自分の興味のある分野の研究を深めることができます。

キャリアセンター機能をもつ弁護士研修センターが橋渡し役となり、弁護士のみならず、法務担当者として、修了生が地域企業で活躍しています。本法科大学院で学んだ専門的知識を生かして、組織内弁護士として、あるいは、法務担当者として、地域組織で活躍する道が拓けています。

組織内弁護士とは
組織内弁護士は、企業、自治体等の組織に勤務し、契約審査や法律調査等を行っています。全国に3,391人(令和6年6月現在)います。



中四国地域の中核大学として法曹養成・継続教育を実施 法科大学院が「橋渡し役」となり地域の組織に人材を輩出



岡山大学法科大学院修了生の主な組織内弁護士就職先

- ・ナカシマプロペラ株式会社
- ・萩原工業株式会社
- ・両備ホールディングス株式会社
- ・帝人ナカシマメディカル株式会社
- ※その他県外の企業 (関東地方：ソースネクスト株式会社など)

岡山大学法科大学院修了生の主な法務担当者就職先

- ・内山工業株式会社
- ・倉敷化工株式会社
- ・株式会社両備システムズ
- ・大倉工業株式会社
- ・株式会社ストライプインターナショナル
- ※その他県外の企業 (関東地方：アース製薬株式会社など)

組織内弁護士からのメッセージ

帝人ナカシマメディカル株式会社 管理部 経営企画課

弁護士 小野 祐一郎さん (平成27年度修了)

私は、帝人ナカシマメディカル株式会社に組織内弁護士として勤務しています。

業務は契約書の起案や審査、社内規則の整備、社内の法律相談への対応、株主総会や取締役会の運営などです。勤め始めてまだ日が浅いですが、常に意識していることがあります。それは「法律を扱っても、そのことだけで利益は生まれない」ということです。法律その他のルールに基づいて事業を行うことで、はじめて利益が生まれます。そのため、日々の企業活動に携わる人々は、誇りをもって絶え間なく奮闘しています。私は、そうした人々に寄り添った意思決定の支援、そして時に自らが意思決定することこそ、組織内弁護士が果たすべき役割だと思っています。意思決定できるようにするためには、課題を言語化して、整理し、関係者に共有して、関係者の要望を聞いて、法令等のルールを参照して解決策を提示することが必要です。私はその上で、関係者と一緒を考えて、「何ができるのか」「どこまでできるのか」「何をしてはいけないのか」について明確なラインを引き、行き先=方針を作れるよう、常に心がけています。これによって事業が始まり、利益に繋がった時、とてもやりがいを感じます。

私たちのプロフェッショナル性は、蓄えた知識と、培った法的思考に裏付けられています。企業法務に携わる者として、関係法令のプロフェッショナルであるべく、日々勉強しています。

企業法務担当者からのメッセージ

大倉工業株式会社 コーポレートセンター サステナビリティ推進部 法務・知財部 法務課

岡部 紅里さん (令和4年度修了)

私は本法科大学院修了後、司法試験を受験しましたが、1回目の受験では不合格となりました。2回目を受験せずに就職という選択をし、2024年に大倉工業株式会社に法務担当者として入社しました。ここでは、本法科大学院を修了してまだ日が浅く、法務担当者としての人生も始まったばかりという私にしかできないお話をお伝えできればと思います。

法務担当者の業務は、契約書のドラフト作成や審査、コンプライアンス研修の実施、内部通報対応、社内規程の整備、関連法令の管理など、企業活動の様々な局面で必要とされています。中でも文書作成は企業内法務において根幹となる業務です。単に正確な情報を伝えるだけではなく、読み手に配慮した文章を書くことの重要性を日々実感しています。上司とのやり取りの中でも本法科大学院でのソクラテスマソッドのことを思い出します。本法科大学院で培った一つひとつのことが社会に出て繋がっていると身に染みて感じています。

このメッセージを読んでくださる方の多くは、これから本法科大学院に入学される方々だと思います。司法試験を目指す道は、長いようでいて短いものです。もしもこの先、「もう疲れちゃったな…」と立ち止まる瞬間が訪れたら、ぜひ思い出してください。皆さんには多くの選択肢があり、広い世界が待っています。私は本法科大学院を修了後、企業法務の世界に飛び込みました。

本法科大学院の先生方は、皆さん一人ひとりの成長を心から応援して下さる素敵なお方ばかりです。ここでの学びは、皆さんの未来を切り拓く大きな力となります。安心して、自分の可能性を信じ、未来を切り拓いてください。一緒に頑張らしましょう!(^^)!

文部科学省「法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」における岡山大学法科大学院の取組

法学未修者が安心して法曹を目指し学べる環境整備	導入教育の効果的な実施、補助教員を活用しての学修支援体制整備、ICT活用による教材開発、共通到達度確認試験の活用を進めるとともに、学生面談及び岡山弁護士会と連携しての授業参観・FD検討会による効果の検証を通じ、未修者が安心して法曹を目指し学べる環境を整備する。
協定先法学部との連携教育システムによる法曹コース教育の拡充	岡山大学法学部の法曹コースにおいて、補助教員・TAを活用しての「先輩が後輩を教えるシステム」を構築するとともに、香川大学法学部に設置された法曹コースにおいて、教育連携の取組を進め、中国・四国という地域環境において地元の大学で法曹を目指すことのできる環境の整備を目指す。
在学中受験に向けたカリキュラム改革の成果検証とPDCAサイクルの確立	未修2年次・既修1年次までに司法試験受験に必要な学修を終えることができるようになるなど、司法試験在学中受験に対応したカリキュラム改革を、学生面談及び岡山弁護士会と連携しての授業参観・FD検討会による効果の検証を通じ、教育課程の充実を図る。
地域産業界との連携による法律系人材の輩出システムの拡充	法科大学院修了生の職域拡大の取組を一層促進し、法科大学院で学ぶことによるキャリア・パスを具体的に示すとともに、司法試験合格者のみならず進路変更者をも対象とする就職支援のシステムを拡充する。
地域連携に基づく研修事業・リカレント教育の拡充	「地域に奉仕し、地域に根ざす」ことのできる修了生(法曹および進路変更者)を継続的に輩出し、実際に地域に貢献することを可能とするために、地域経済団体等と連携して、法務担当者養成基礎研修等を実施し、将来的には、履修証明プログラムを構築して、リカレント教育の拡充を図る。
地域自治体・産業界と連携した研究会活動によるシンクタンク機能の拡充(機能強化構想充実)	岡山大学法科大学院弁護士研修センター(OATC)に、医療福祉分野の「権利擁護研究会」、法とビジネス分野の「経済法研究会」、行政法実務分野の「行政法実務研究会」を設け、地域連携に基づく法科大学院・OATCのシンクタンク機能のさらなる拡充を図る。

教員/ スタッフ紹介

本研究科では、16名の専任教員のほか、1名の客員教授、58名の兼任・兼任教員がみなさんの学修をサポートします。

※科目名は2025年度のもので 2025年4月1日現在



全学生との定期的な個別面談をとおり、一人一人の学生の弱点を把握し、個々人の学修ニーズに即したきめ細かな少人数教育を実践しています。

公法



憲法

「憲法I(統治)」「憲法II(人権)」「人権演習」「憲法演習」

教授 黒澤 修一郎 KUROSAWA Shuichiro

どのような法律家になりたいかを構想しながら学習を進めてください。ロースクールでの様々な出会いを大切に、教員・実務家・友人等と積極的に議論し、法律家の卵として学習と自己形成に励んでください。教室で共に議論し学び合しましょう。



行政法

「行政法演習」「行政法特論」「行政法解釈の基礎」「公法応用演習」

教授 南川 和宣 MINAMIGAWA Kazunobu

行政法は難しいとのイメージを持たれる方が多いので、授業では、できるだけ解りやすく説明するよう心がけています。また受講生の皆さんが行政事件について具体的にイメージできるように現物教材等を多用した授業設計を行っています。

民事法



民法

「民法I」「民法II」「民法演習I」「民法演習II」「民事法応用演習」

教授 岩藤 美智子 IWADO Michiko

法曹になるためだけでなく、法曹になった後も、用いることができる知識や思考力を身につけられるような授業を目指したいと思います。



民法

「民法II」「民法演習II」「民法演習III」「民事法応用演習」

教授 濱口 弘太郎 HAMAGUCHI Kotaro

民法は勉強量も多く大変ですが、コツコツと勉強していけば、必ず道は開けます。まずは全体像を頭に入れましょう。その上で、説得力のある思考を展開できることが大切です。私も、みなさんが法律家になるためのお手伝いをしていきたいと思います。



商法

「商法演習」「商取引法」「民事法応用演習」「会社訴訟法演習」「商法」

教授 鈴木 隆元 SUZUKI Takamoto

法曹になるための学修は、学修者一人一人が、法の基本的規律を正しく把握し、法制度の趣旨の理解や判例の考え方に合点がいくことが重要であると思います。そして、法は社会の変化とともに常に変化しています。どのような理由でどのような変化が生じるのか、とことんまで皆さんと議論していきたいと思います。



民事訴訟法

「民事訴訟法」「民事訴訟法演習」「民事法応用演習」「会社訴訟法演習」

教授 伊東 俊明 ITO Toshiaki

よい法曹(弁護士・検察官・裁判官)となるためには、緻密な論理的思考と柔軟な発想に基づいた実践力・応用力が必要になると思います。自分自身の目標を適切に設定し、それを実現するための地道な努力を大切にしてください。

刑事法



刑法

「刑法」「刑法演習」「刑事法応用演習」「経済刑法」

教授 神例 康博 KANREI Yasuhiro

法科大学院の学習では、考えることを放棄しないこと、独りよがりにならないことが大切だと思います。授業は勉強の切っ掛けに過ぎません。授業を踏まえ、友人達との積極的な議論を心がけてください。



刑事訴訟法

「刑事訴訟法」「刑事訴訟法演習」「刑事法応用演習」

教授 小浦 美保 KOURA Miho

法科大学院で学ぶべきことはたくさんありますが、まずは思考力を養ってください。自ら考えて答えを出す力は、将来、法曹の一員となった後にもみなさんを助けます。バランス感覚を大切に、法を活かすことのできる法律家になってください。

展開・先端



経済法

「経済法(独禁法)I」「経済法(独禁法)II」「経済法(事例研究)III」「地域組織内法務(ネットワーク・セミナー)」

教授 佐藤 吾郎 SATO Goro

独占禁止法の授業では、公正かつ自由な競争の実現を法的にどのように図り、消費者の利益を実現していくのかという視点から、事例を検討し、法曹に必要な論理的思考力および具体的な妥当性を検討する分析力を養成します。自らの考えを、わかりやすく、論理的に表現する文章力を学んでいきましょう。



社会保障法・労働法

「社会保障法」「社会保障制度論」「リーガルソーシャルワーク演習」「労働法II」

教授 西田 和弘 NISHIDA Kazuhiro

法律知識の習得は当然です。しかし、社会の実態や市民生活の実情を知り、市民としての常識と依頼者への共感の姿勢を持たねば、その知識は生きたものとなりません。真の意味でのプロを目指してください。

実務家教員



民事実務系科目

「法解釈入門」「刑事法応用演習」「法曹倫理」「要件事実と事実認定の基礎」「民事訴訟実務」「ローヤリング」「知的財産法I」「企業法務」

教授 弁護士 井藤 公量 ITO Kimikazu

法曹の基本は「論理のちから」です。みなさんといっしょにロジカルな思考を鍛錬していきたいと思います。私もみなさんも「法律の神様」からみればたいした違いはありません。一緒に険しいこの道の頂点を目指してがんばりましょう。



公法・民事実務系科目

「行政法演習」「憲法演習」「民事訴訟実務」「模擬裁判」「エクスターンシップ・クリニック」「地域組織内法務(ネットワーク・セミナー)」

教授 弁護士 吉野 夏己 YOSHINO Natsumi

基礎的な法律知識を修得するとともに、常に批判的・創造的視線をもち、法律実務の側からの「実務と理論の架橋」を実現できるような法曹になるべく学んでいきましょう。



刑事実務系科目

「刑事訴訟法演習」「刑事法応用演習」「刑事訴訟実務」「法曹倫理」

教授 弁護士(検察官経験者) 吉沢 徹 YOSHIZAWA Toru

法律学は、基本的知識・理解が非常に重要です。「基本なくして応用なし」です。この法律はどのような場面で使うのか、を常に考えながら学んでいきましょう。授業では、実務で法律を使うことを想定して、具体例を踏まえて講義していきます。



民事実務系科目

「法曹倫理」「ローヤリング」「要件事実・民事法演習」「家族法実務」「労働法II」

教授 弁護士 妻鹿安希子 MEGA Akiko

基本を大切に、そして実践的に考える力を身に付けましょう。目標に向かって、教員と学生との距離が近いロースクールの環境を最大限活用して勉強してください。高い志をもった皆さんと議論できることを楽しみにしています。



民事実務系科目

「法曹倫理」「ローヤリング」「要件事実・民事法演習」「家事事件特論」「民事法応用演習」「民事訴訟実務」

准教授 弁護士 周東 秀成 SHUTO Hidenari

バランス感覚を持ち、社会に必要とされる法律家の育成に、微力を尽くしたいと思います。みなさんも、人生における貴重な時間を使って法科大学院で学修することを自ら決意されたわけですから、志を高く持ち、目標に向かって日々邁進されることを期待します。

情報処理



情報処理

「法解釈入門」(情報リテラシーの基礎) 情報システム管理

助教 羅 明振 NA Myungjin

法律の勉強においても、コンピュータ等の情報機器を用いて必要な情報を収集し、それを活用する情報処理技術が必要とされます。情報機器の整備、情報処理知識の提供等により効率的な情報処理ができるように皆さんをサポートしていきたいと思います。

客員教授



民事系科目

「民事訴訟実務」「民事執行・保全法」

弁護士(元司法研修所教官) 京野 哲也 KYONO Tetsuya

本研究科は、環境、教員、学生と3拍子揃ってのびのび学修できる条件が整っています。私は民事の法律実務家として司法研修所教官などの経験を生かして、皆さんを実務へと橋渡しするお手伝いをします。恵まれた学修環境を生かして所期の目的を実現してください!

兼任教員

法制史 大泉 陽輔 大学院社会文化科学研究科准教授
法社会学 李 英 大学院社会文化科学研究科准教授
医事法I 穴戸 圭介 大学院ヘルスシステム統合科学研究科教授

兼任教員(研究者教員)

国際私法 佐野 寛 岡山大学名誉教授
環境法 高橋 正徳 元大学院社会文化科学研究科准教授
税法 青木 丈 香川大学法学部教授
裁判外紛争解決制度論 小田 敬美 愛媛大学法文学部教授
上場会社法制 兼田 克幸 北海道大学名誉教授
国際法 砂川 和泉 岡山商科大学法学部教授
知的財産法I 田中 宏和 福山平成大学福祉健康学部准教授
医事法II 平野 美紀 香川大学法学部教授
保険法 山下 典孝 青山学院大学法学部教授

兼任教員(派遣教員)

刑事訴訟実務 派遣裁判官 溝田 泰之
刑事訴訟法演習 派遣検察官 竹内 亜紀子

兼任教員(実務家教員)

リーガルソーシャルワーク演習 弁護士 上尾 洋平	法曹倫理、ローヤリング、倒産処理法II(民事再生法) 弁護士 森岡 佑貴
ローヤリング 弁護士 大林 健太	法曹倫理 弁護士 山本 愛子
消費者法 弁護士 大本 崇	ローヤリング、応用労働法 弁護士 山本 諒平
企業法務 弁護士 川端 美智子	刑事訴訟実務 弁護士 渡辺 勝志
ローヤリング 弁護士 岸田 知子	不動産登記法 司法書士 大賀 宗夫
法曹倫理 弁護士 小林 裕彦	企業法務 司法書士 河近 克明
労働法I 弁護士 坂本 純平	不動産登記法 司法書士 澤田 優也
企業法務、法曹倫理 弁護士 妹尾 直人	不動産登記法 司法書士 中田 智明
家事事件特論 弁護士 寺山 倫代	不動産登記法 司法書士 中津 裕子
知的財産法II 弁護士 箱守 英史	不動産登記法 司法書士 畑 憲一
企業法務 弁護士 馬場 幸三	企業会計論 公認会計士 小橋 仙敬
企業法務 弁護士 土方 彬弘	家事事件特論 税理士 尾川 望
法曹倫理 弁護士 則武 透	企業法務 税理士 守井 照久
法曹倫理 弁護士 藤岡 温	リーガルソーシャルワーク演習 社会福祉士 尾崎 力弥
住民訴訟法 弁護士 光成 卓明	エクスターンシップ・クリニック 岡山弁護士会会員
倒産処理法I(破産法) 弁護士 森 智幸	



事務スタッフより

単位や履修手続き、試験や授業に関すること、ゼミのための演習室の予約、奨学金関係のことなど、学生生活を送るうえで分からないこと、困ったことがあれば、いつでも法務研究科教務担当窓口や法科大学院事務室に来てください。また、法科大学院資料室では皆さんがスムーズに学習できるよう、授業に必要な資料やデータベースをとりそろえています。ご利用の際にお困りのことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

その他、学内には、心身の健康相談ができる保健管理センターや、何か心配ごとがあるとき、困ったことが起きたときなどに気軽に訪ねられる学生相談室もあります。法科大学院に入学すると、授業や自主ゼミ、自習などで、朝早くから夜遅くまで1日のほとんどを大学で過ごす学生の方が多いです。皆さんが、より快適に学生生活を送れるよう、事務スタッフ一同全力でサポートしていきたいと思っていますので、何かあれば気軽に声をかけてください。



司法試験合格者実績/サポート体制

1. 司法試験合格者実績について

法学既修者を主体とする法科大学院が司法試験合格率の上位を占めるなか、本研究科は、法学既修者の合格率が高いことに加え、法学未修者の合格者もコンスタントに輩出しています。

	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
合格者数(内、未修者)	5人(1人)	12人(4人)	8人(3人)	16人(8人)	8人(3人)	7人(5人)
受験者数(内、未修者)	25人(17人)	33人(19人)	26人(18人)	33人(23人)	30人(22人)	42人(33人)

在学中受験

	令和6年	令和5年
在学中受験合格者数(内、未修者)	3人(0人)	7人(2人)
在学中受験者数(内、未修者)	11人(6人)	10人(3人)

2. サポート体制

勉学のための施設

法科大学院資料室及び、法学部・社会文化科学研究科に置かれている資料室において、法学関係の雑誌や図書、判例データベースその他の電子資料が利用できます。もちろん専用の自習室も完備しています。

また、専用の情報実習室があり、授業で使用するほか、自習にも利用できます。さらに、充実の設備を備えた模擬法廷室も授業に活用しています。

附属図書館(中央図書館)は本研究科に近接しており、蔵書約160万冊、閲覧席約1,000席を有しています。これらの図書資料、閲覧・自習スペースの利用もできます。



法務研修生制度

法務研修生制度は、法科大学院修了直後の一定期間、施設などを利用させることで、司法試験に向けての勉学環境を提供することを目的としたものです。法務研修生になれば、在学生と同様に資料室や図書館など学内施設を利用できるとともに、土日祝日を含めて専用の自習室で勉学に専念できます。

また、法務研修生を対象として、教員や若手弁護士によるゼミや個別指導なども随時実施しています。

岡山弁護士会の協力

岡山弁護士会からは、(1)実務家教員の派遣、(2)授業参観及び参観後の意見交換会への参加、(3)エクスターンシップの受け入れ、(4)修了生向けの研修実施、(5)岡山大学を含む県内の大学に在籍する大学生を対象とした法科大学院説明会の実施などにおいて多大な支援をいただいております。

【学修アドバイザー制度】

特に法学未修者の皆さんは、予習・復習や、課題起案をはじめとする法律文書の作成など、法科大学院における学修を具体的にどのように進めるかについて、戸惑うことや不安を感じる人が多いようです。そこで、在学生の学修を入学時から継続して支援するため、修了生の若手弁護士を学修アドバイザーに任用しています。学修アドバイザーは、授業担当教員と連携し、授業と並行して、司法試験合格者および実務法曹という立場から学修を支援するほか、各種相談に日常的に応じています。学修アドバイザーも、身近で頼りがいのある存在として、皆さんの段階的・系統的学修をきめ細かく支援します。



2026年度入学者選抜試験について

1. 求める学生像

岡山大学大学院法務研究科(法科大学院)は、「地域に奉仕し、地域に根ざした法曹育成」という理念にかなう、次のような学生を求めます。

社会問題への幅広い関心を持つ人

倫理観・正義感を持つ人

論理的思考力を持つ人

コミュニケーション能力を持つ人

高度専門職業人たる法曹にふさわしい体系的法知識と実践的法運用能力を身につけようとする人

2. 入試方法

一般入試

※法学未修者入試と法学既修者入試の併願が可能です。

1) 法学未修者入試：小論文、面接・書類審査を総合して判定します。

2) 法学既修者入試：法律科目試験、面接・書類審査を総合して判定します。

法律科目試験は、公法系(憲法)、民事法系(民法、民事訴訟法、商法)、刑事法系(刑法、刑事訴訟法)の3科目についての論述試験です。出題範囲は、募集要項でご確認ください。

法曹コース特別入試

【対象者：岡山大学法学部法曹プログラム所属学生、香川大学法学部法曹プログラム所属学生】
法曹プログラムの成績、面接・書類審査を総合して判定します。

3. 募集人員

一般入試(A日程、B日程、C日程)及び法曹コース特別入試を合わせて24人

4. 入試日程

A日程	法学未修者入試	2025年8月31日(日)
	法学既修者入試	2025年8月30日(土)
B日程	法学未修者入試	2025年11月16日(日)
	法学既修者入試	2025年11月15日(土)
C日程	法学未修者入試	2026年2月1日(日)
	法学既修者入試	2026年1月31日(土)
法曹コース特別入試		2025年8月30日(土)

5. その他

以上については、あくまで予定であり、2025年4月1日現在の情報です。

入学者受入方針や入試の詳細については、公式ホームページ(二次元コード)や募集要項でご確認ください。
(募集要項は2025年5月下旬に公開予定です。)



学費/入学料・授業料免除/奨学金

1. 学費

入学料	282,000円(予定)	
授業料	【前半期】402,000円(予定)	【後半期】402,000円(予定)

※授業料は、前半期分と後半期分の2期に分けて5月と11月に納入いただくことになっています。入学時及び在学中に入学料、授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用されます。

2. 入学料・授業料免除

入学料免除及び入学料徴収猶予(大学独自制度)

下記のいずれかに該当する場合、本人の申請に基づき選考のうえ、予算の範囲内で入学料の全額又は半額を免除する制度及び選考のうえ、入学料の納入を猶予する制度があります。

- ・経済的理由により、入学料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
- ・入学前1年以内に入学者の学資を主として負担している者が死亡、又は入学者もしくは学資負担者が大規模な災害や火災、風水害等の災害を受けたため入学料の納入が著しく困難な者
- ・「令和6年能登半島地震」、「令和2年7月豪雨」、「平成30年7月豪雨」等の激甚災害により被災した者

2024年度実績 半額免除 3人

授業料免除(大学独自制度)

下記のいずれかに該当する場合、本人の申請に基づき選考のうえ、予算の範囲内で授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

- ・経済的理由により、授業料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
- ・各半期の始期前1年以内に学生の学資を主として負担している者が死亡、又は学生もしくは学資負担者が大規模な災害や火災、風水害等の災害を受けたため授業料の納入が困難な者
- ・「令和6年能登半島地震」、「令和2年7月豪雨」、「平成30年7月豪雨」等の激甚災害により被災した者

2024年度実績(前半期)全額免除9人、半額免除2人(申請者13人) (後半期)全額免除12人、半額免除1人(申請者14人)

3. 奨学金

独自の奨学金・奨励金

名称	種類	支援額	資格	人数	期間
岡山大学大学院法務研究科 金光勉学奨励金	給付	100,000円	優秀な成績を修め、かつ、人物的に優れた者	新2年次生 2名 新3年次生 3名 (2024年度実績)	年度ごと
岡山大学法科大学院 奨学金	貸与 無利息(※)	600,000円/年 又は 1,200,000円/年	【1年次生】入試成績が優秀 【2・3年次生】前年度の学業成績が優秀	【1年次生】候補者10人程度 【2・3年次生】4人程度	2年間

(※) 返還免除制度あり。

日本学生支援機構の貸与奨学金

日本学生支援機構の貸与奨学金には、無利子貸与と有利子貸与の二種類があります。

※貸与の基準や金額などは変更される場合があるので、利用前に日本学生支援機構のHPで改めて確認してください。

■第一種奨学金(無利子)

人物・学業ともに特に優れ、経済的理由により著しく修学に困難があると認められる者に貸与。月額5万、8万8千円から選択。

2024年度採用実績 6人(申請者:6人)

■第二種奨学金(在学中は無利子、卒業後年3%を上限とする利子付)

人物・学業ともに優れ、経済的理由により修学に困難があると認められる者に貸与。

月額5万、8万、10万、13万、15万円から選択。

※月額15万円を選択した場合、さらに月額4万円又は7万円の増額貸与を選択することができます。

2024年度採用実績 2人(申請者:2人)

※「特に優れた業績による返還免除制度」について

大学院において第一種奨学金の貸与を受けた学生であって、在学中に特に優れた業績をあげた者として機構が認定した場合に貸与期間終了時に奨学金の全部又は一部の返還が免除される制度があります。2023年度実績 半額免除 1人